

# 令和3年度「山城地方外国語教育授業指導力アップ研修会 (小学校) (中学校)」を開催しました。

中学校 11月4日(木)、小学校 11月11日(木) 京都府総合教育センターにて開催

小学校では昨年度から、中学校では今年度から新学習指導要領が全面実施となりました。今回の改訂では、小学校の中学年に新たに外国語活動が導入され、高学年は教科となりました。今年度全面実施となった中学校では、こうした小学校の学びを踏まえ、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することとしています。さらに、小・中・高一貫して、「言語活動を通して英語コミュニケーションの資質能力を育成する」ことを目標に学びの連続性を意識した指導を行うことが求められています。こういった小中接続の視点も含め各校種の実践も御紹介しながら具体的な授業改善につながる内容で開催しました。

## 研修会の流れ

趣旨説明 京都府山城教育局 指導主事 佐々木 みゆき  
実践発表 「ICTを有効に活用し、主体的・対話的で深い学びを目指して」  
小学校 京田辺市立田辺小学校 主幹教諭 尾崎 周平  
中学校 城陽市立北城陽中学校 教諭 赤田 優子

講義

「今求められる小(中)学校英語の授業づくり  
～新学習指導要領が本当にめざしているもの～」  
京都外国語大学 教授 山本 玲子 様

講義



## 参加者の感想 (小学校)

○大きく変わる英語教育改革の中で、いろいろ考えさせられる点があったのですが、大切なのは「目の前の子どもたちのためになることかどうか」を軸に持つこと、というメッセージが強く心に残りました。私は英語専科として小学校教育に携わっていますが、中学～大学にどのようにつながっていくのか、情報収集していきたいと感じました。

○実践発表を聞いてICTの活用がもっと必要であると感じた。評価領域の話聞いて2年間(高学年)でバランスが良ければ良いという話を聞き少し考えが変わった。担任との連携をもう一度考える必要があると思った。

## 研修会の様子



## 参加者の感想 (中学校)

○「間違えたり失敗したりするのは想定内。そうやって成長していく」という山本先生のお言葉に背中を押されたような気持ちになりました。

ICTを積極的に進める上でのポイントや我々が今どういった事を大切に、生徒へのアプローチに変えていくのかが見えました。

○赤田先生の実践発表を聞き、「小学校英語の内容を知ること」の必要性を学びました。小学校の教科書が変わり、どのような知識を習得して上がってきているのか、生徒の実態は年々変わってきているのだと思いました。その生徒の実態を知ることから授業準備が始まるのではないかと感じました。

講義の最後に質疑応答の時間がありました。小学校・中学校共に挙手が途絶えず改めて参加者の意欲の高まりを感じました。山本教授には研修会終了後も何人もの先生方が質問に行かれていました。改めて集合研修の良さを感じた、という御意見もいただきました。

2日間でのべ  
122名の参加  
がありました